

# 感染症学

責任者・コーディネーター	感染症学・免疫学分野 村木 靖 教授				
担当講座・学科（分野）	感染症学・免疫学分野、機能病態学分野、臨床検査医学講座、病理診断学講座、衛生学公衆衛生学講座、消化器内科消化管分野、呼吸器内科分野、小児科学講座				
担当教員	村木 靖 教授、佐藤 孝 教授、坂田 清美 教授、柳川 直樹 准教授、梁井 俊一 特任准教授、小野寺 直人 講師、外館 玄一郎 講師、秋山 真親 助教				
対象学年	4	区分・時間数	講義	10コマ	15.0時間
期間	前期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	0コマ	0.0時間

## ・学習方針（講義概要等）

感染症学を学ぶ目的は、2年次で学んだ微生物学や免疫学の知識を、臨床医学の立場から再構築することである。感染症はほとんどの診療科目と関係があるため、基礎医学の立場からだけではなく、臨床医学の視点で学習し直すことがより重要である。基礎医学で学んだ知識の復習をし、さらに各々の講義と演習を通じ、役に立つ感染症の知識を身に着けることを期待する。

## ・教育成果（アウトカム）

各教科で学んできた感染症に関連する知識を横断的に整理することで、感染症に関する重要なポイントについて説明できるようになる。

（ディプロマ・ポリシー： 3,4 ）

## ・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	微生物の基本的な構造の説明ができる。
2	微生物の増殖様式の説明ができる。
3	微生物の病原性の発揮の仕方の説明ができる。
4	感染症に関連する医療安全の説明ができる。
5	感染症に関連する法規や法令の説明ができる。
6	各感染性疾患の特徴（症状、病態、検査、基本的治療など）の説明ができる。

## ・講義場所

講義：東1-D講義室

## ・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	目標番号
講義	6/4(金)	1	感染症学・免疫学分野	村木 靖 教授	臨床感染症学の学修に必要な微生物（細菌、真菌、ウイルス）の基本的性状およびそれらの病態との関連性	1,2,3,6
講義	6/4(金)	2	感染症学・免疫学分野	村木 靖 教授	臨床感染症学の学修に必要な微生物（細菌、真菌、ウイルス）の基本的性状およびそれらの病態との関連性	1,2,3,6
講義	6/11(金)	1	機能病態学分野	佐藤 孝 教授	寄生虫学総論と代表的な寄生虫疾患の病態	1,2,3,6

講義	6/11(金)	2	臨床検査医学講座	小野寺 直人 講師	医療関連感染制御論	3,5,6
講義	6/14(月)	1	病理診断学講座	柳川 直樹 准教授	炎症の概念と感染症、またそれらの治癒過程	3,6
講義	6/14(月)	2	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	感染症に関連する法規や法令	3,4,6
講義	6/18(金)	2	消化器内科消化管分野	梁井 俊一 特任准教授	消化器の感染症	3,6
講義	6/22(火)	5	呼吸器内科分野	秋山 真親 助教	呼吸器系の感染症	3,6
講義	6/25(金)	1	小児科学講座	外館 玄一郎 講師	小児感染症学①	3,6
講義	6/25(金)	2	小児科学講座	外館 玄一郎 講師	小児感染症学②	3,6

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	医療機関における院内感染対策マニュアル 作成のための手引き(070413 ver. 3.0)	荒川宣親	厚生労働省	2006
参考書	医療機関における院内感染対策マニュアル 作成のための手引き(160201 ver. 6.02)	八木哲也	厚生労働省	2016
教科書	シンプル微生物学改訂第6版	東匡伸、小熊恵二、堀田博	南江堂	2018
教科書	Review of Medical Microbiology and Immunology (15th edition)	Warren Levinson	LANGE	2018

・成績評価方法

総括評価：進級試験の成績で評価する。形成的評価：授業中に演習を行う。  
全コマ数の3分の2を受講した者にのみ進級試験の受験を認める。「欠席の取扱いに関する規程」第4条に掲げる理由に依る場合、あるいは病気等による欠席で、医師の診断書を添えた欠席届の提出を伴う場合にはこれを考慮することがある。

・特記事項・その他

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、図書館、PC、インターネット環境

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	デスクトップパソコンElite Desk 一式	1	講義・試験の資料作成
講義	ガラス両開き保管庫一式	1	配布資料、試験、成績の保存
講義	デジタルフルカラー複合機 一式	1	配布資料の作成、コピー
講義	デスクトップパソコン Pavilion Desktop595-p0101.jp	1	講義資料作成